

3. [医療と保健の融合による健康づくり拠点の整備について]

三刀屋町会場

Q7：この施設のランニングコストはいくらかかるのか。職員の定数を削減した予算が温水プールのランニングコストに回ってしまうのではないか。

A：総経費から利用料を引いたものが市の負担になる。温水化の熱源に係る費用が2億円程度かかり、方式も灯油ボイラー式や木質バイオマス、地中熱利用などを考えている。木質バイオマスの場合、年間で四千六百万円程度と試算しており、利用状況によって変わる。この件も検討委員会で検討していただく。(健康福祉部長)

Q8：木質バイオマスや地中熱と言われたが、加茂町だと花崗岩なのでほとんど熱源がないと思う。大東の海潮温泉があるのだから、その熱源を利用してはどうか。市立病院も近くにあるので、医療との融合も可能だ。加茂と大東は近いので連携を取ってやってほしい。

A：地中熱は地下100メートルあたりで15～17度程度です。この温度で夏は涼しく、冬は快適にできる計算です。温泉の利用も考えたが、皆さんが行きやすい加茂町に建設したい。(健康福祉部長)

Q9：せっかく加茂に新しく良い施設ができて、遠くて行けないと利用率が悪くなる。

A：行きやすい施設にするため、市民バスのルートを見直す。それ以外の交通の面も検討する。また、市政懇談会でいただいた意見として検討委員会に反映する。(健康福祉部長)

A：市民バスでの運行も考えて、各施設に回れるような便も色々な角度から見て検討する。(政策企画部長)